

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

自己点検・評価委員会

（責任者名） 岸本 昇

（役職名） 自己点検・評価委員会委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	【評価結果】 十分に実施している。 本教育プログラムは必修科目のみで構成されており、当学科に入学した学生（1学年の定員40名）は全員がプログラム構成科目を学年進行で履修（※1）することになっている。 本教育プログラムは令和6年度1年生から適用されている。令和6年度1年生の履修率は100%である。 本教育プログラムの構成科目を含む全科目の修得状況については、9月と3月に行われる成績判定会で確認している。令和6年度1年生の単位未修得者はいなかった。 単位未修得者は、留年した場合には再履修し、仮進級した場合は特別指導を受講後に再評価を受けることになっている。 ※1：転入学、編入学、転科、再入学によって入学年より前の学年の授業科目を履修できない者は、対象外となる。
学修成果	【評価結果】 十分に実施している。 9月と3月に行われる成績判定会において学生の履修・単位修得状況を把握し、クラス担任から学生に対して適切な指導を行っている。単位未修得者がわずかにいるが、留年した場合には再履修、仮進級した場合は特別指導受講後の再評価において単位取得できるように指導する。 毎年、全開講科目について学生授業アンケートを実施して、「この授業に意欲的・積極的に取り組みましたか。」「この授業を総合評価するとあなたはどれぐらいに評価しますか。」の項目により学修成果の確認を行っている。本教育プログラム構成科目の学生授業アンケートによると、学生自身の授業への取り組み状況は非常に積極的であり、授業への満足度も高い結果が得られている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	【評価結果】 十分に実施している。 学生授業アンケート内で、学生が授業内容の理解について自己評価を行っている。それによると、若干の学生が低い評価を行っているが、多くの学生は高い評価を行っている。 ただし、1年生の段階の教育プログラムは基礎的な学習に留まっており、高度な学習内容には触れていない。当学科としては、後の学年の開講科目において学生がデータサイエンス、AIに関するより深い理解を得ることを期待している。そのためにも、3年生までの基礎領域については、全員が到達目標を達成できるように、理解度の低い学生に対するフォローと授業改善を実施する。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	【評価結果】 十分に実施している。 本教育プログラムは必修科目のみで構成されており、履修率向上のために改めて後輩等の学生に本教育プログラムを推奨する必要はないが、修得率を向上させるために、本校HPにおいて周知を行う、修了証を授与するなどの目的意識を育む奨励策を行う予定である。 なお、すでに認定を受けているリテラシーレベルについては本校HPで周知を行っている。 https://www.wakayama-nct.ac.jp/campuslife/education/datascience/
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	【評価結果】 十分に実施している。 本教育プログラムは必修科目のみで構成されており、本校に入学した学生全員が履修（※）する。1年度あたり160名（40名×4学科）の学生が新たに本プログラムの履修を開始することになる。 本教育プログラムの適用は令和6年度1年生からとなっており、令和6年度末現在の履修率は100%である。 ※転入学、編入学、転科、再入学によって入学年より前の学年の授業科目を履修できない者は、対象外となる。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	【評価結果】 — 【意見】 令和6年度末の時点で本教育プログラムの修了者はいない。卒業生の進路状況については継続的に調査しているため、将来的には本教育プログラム修了者の進路が調査できる予定である。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	【評価結果】 十分に実施している。 令和元年度より国立高等専門学校機構「非情報系学科を含む全学科での情報教育の強化・高度化推進プロジェクト」に参加し、産業界へのヒアリング結果から抽出した10年後に必要とされる情報活用能力（データサイエンス・AI）の教育の本校カリキュラムへの反映をおこなった。 本教育プログラム構成科目を含む本校の教育研究活動等の状況について、機関別認証評価や和歌山工業高等専門学校諮問委員会などの外部評価を受けている。令和元年度に受審した機関別認証評価においては、「大学改革支援・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしている。」との評価を受けている。令和4年度和歌山工業高等専門学校諮問委員会においては、「和歌山高専における情報教育の在り方」について産官学の業界からの意見を受けた。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	【評価結果】 実施している。 本教育プログラムと並列開講しているリテラシーレベルの教育プログラムでは、AI等を活用した新しいビジネスモデルの調査、データ可視化、ビッグデータの利用を通して、数理・データサイエンス・AIの活用事例に対する理解を深めている。 数理・データサイエンス・AIに直接触れる本教育プログラムでは、生物応用化学科に関する業務やプロジェクトの背景や目的に対して適切なデータ収集を行い、社会に与える影響を考えた解析結果の解釈の言語化能力を身につけることで、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を感じることができる内容となっている。 学生授業アンケートでは、「この授業に意欲的に積極的に取り組みましたか」との設問があり、学生からの回答結果に基づいて教員が授業改善を図る体制が確立している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	【評価結果】 実施している。 授業内容についてはシラバスに明記し、教員によるシラバスの相互点検を実施することで内容・水準を維持・向上できる仕組みを整備している。 学生授業アンケートと教員相互の授業参観を行って、授業力評価の可視化を行っている。これらには「授業中の説明はわかりやすかったか」、「授業の理解を深めるような工夫は行われているか」の設問が共にあり、授業担当教員が学生や他の教員からの回答結果に基づいて継続的に授業の内容・方法の改善を図る体制が確立している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	